東工大クロニクル

Tokyo Tech Chronicle

Contents

1 東工大を含む ECM 共同研究開発チーム第 15 回「産学官連携功労者表彰」国土交通大臣賞を受賞
3 笹川崇男准教授がフロンティアサロン第 7 回永瀬賞特別賞を受賞
4 職員野球部「東工大フェニックス」が在京大学等対抗の野球大会で優勝
7 サイクリング部サイクルサッカー班チャンピオンズカップで優勝し、世界大会に出場決定
10 松岡清一さんが代表取締役を務める FIXER 社がマイクロソフト社から表彰
11 東工大メディア研究会が、米マイクロソフトの学生 IT コンテスト世界大会でベスト 32 に
14 コール・クライネス 東京都合唱コンクールで金賞、3 年ぶり 35 回目の全国大会出場
15 東工大マイスターのエコノムーブ部門がエコノムーブ関西大会 2017 で総合 3 位・技術賞を受賞
17 舞踏研究部が東都大学選手権で団体準優勝
20 次期学長候補者を決定
21 新産業創出・育成の推進に向けたギャップファンドの設置および運営に係る組織的連携協定を締結
22 大規模都市建築を対象とした社会活動継続技術共創コンソーシアム発足
24 大岡山キャンパス内に新学生寮「緑が丘ハウス」がオープン
26 大岡山キャンパス構内の自転車走行ルールを変更
27 平成 30 年度 東京工業大学基金奨学金「大隅良典記念奨学金」の募集を開始
28 TAIST-Tokyo Tech 10 周年記念シンポジウムを開催
31 2017 年度前期の附属図書館企画展示

No. 520

November 2017

東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

東工大を含むECM共同研究開発チーム 第15回「産学官連携功労者表彰」国土交通大臣賞を受賞

本学の物質理工学院 材料系の坂井悦郎特任教授が関わる ECM 共同研究開発チーム※および国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下 NEDO）は、科学技術イノベーションに係る産学官連携活動における大きな成果を称えることを目的として内閣府が主催する「第 15 回 産学官連携功労者表彰」において、国土交通大臣賞を受賞しました。

受賞関係者の記念写真（左が坂井特任教授）

今般の受賞では、NEDO の助成のもと、「ECM®（エネルギー・CO_2 ミニマム）セメント・コンクリートシステム」を開発し、本学とセメント製造 4 社が持つセメント設計技術と、ゼネコン 2 社と混和剤製造 1 社が持つ建設技術とを、綿密に連携したオープンイノベーションにより融合・進化させ、環境と品質のバランスに優れた低炭素型セメントとその利用技術の実用化に成功した点が評価されました。

※株式会社竹中工務店、鹿島建設株式会社、国立大学法人 東京工業大学、日鉄住金高炉セメント株式会社、株式会社デイ・シイ、太平洋セメント株式会社、日鉄住金セメント株式会社、竹本油脂株式会社

開発の背景

コンクリートの主要な材料であるセメント（普通ポルトランドセメント）は、製造時に石灰石などの原料を高温で焼成するため、多くのエネルギーを必要とするほか、大量の CO_2 が発生します。セメントの製造にかかる CO_2 排出量は我が国全体の 3%強を占めていることから、セメント製造に係る低炭素化が重要な課題といえます。

ECM セメント・コンクリートシステムの概要

「ECM セメント」は、セメントの 6～7 割を、鉄鋼製造の副産物である高炉スラグ※の微粉末に置き換えることで、材料製造時のエネルギー消費量と CO_2 排出量を大幅に削減するものです。本学とゼネコン・メーカー7 社の共同研究により、セメントの材料成分・構成の最適化や、新規の化学混和剤の開発を行い、構造物への適用に向けてのコンクリート・地盤改良技術を開発し、従来の品質・性能上の課題を解決しました。

※高炉スラグは、製鉄所の溶鉱炉で銑鉄を作る際の副産物で、溶融して出てくる鉄以外の成分を水で急冷したものです。

ECMセメント

ECMセメントを用いた構造体

ＥＣＭコンクリート打設状況

坂井悦郎特任教授 コメント

坂井悦郎特任教授

この研究は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）助成事業にて、サプライチェーンを成す企業体（建設会社、材料製造メーカ）と大学が連携して行いました。大学・セメントメーカー4 社による「ECM セメントの開発」、建設会社 2 社・化学混和剤メーカー1 社による「ECM セメントを用いた建設技術の開発」に大きく分け、建設側の要求品質ニーズをセメント設計に的確に反映させ、重要でポジティブな結果を早期に発見、フィードバックして修正する連携体制を強化したことで、開発スピードが大幅に向上しました。今回の表彰はこのような産官の連携に対して評価されたものと思っています。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報・地域連携部門・2017 年 9 月 14 日）

笹川崇男准教授がフロンティアサロン第7回永瀬賞特別賞を受賞

東京工業大学 科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所の笹川崇男准教授が、フロンティアサロン第 7 回永瀬賞特別賞を受賞しました。

宮田フロンティアサロン財団代表理事（左）から賞状を受け取る笹川准教授（右）

受賞理由は、「高温超伝導体」「トポロジカル絶縁体」「トポロジカル超伝導体」などの様々な物質を宝石に類する単結晶として合成することで、電子の隠れた超機能の開拓に取り組み、省エネルギーな電子機器や超高速なコンピュータなどの実現に役立つと期待される画期的な電子の性質をいくつも見つけることに成功したことです。

同賞は、日本の未来を拓く若手研究者の支援を目的として、東進ハイスクール等を運営する株式会社ナガセ（永瀬昭幸社長）の寄付により設立されたフロンティアサロン財団（代表理事 宮田清蔵）において、我が国の科学技術の振興そして人類の未来への貢献に繋がる新しい挑戦の観点から最も優れた研究を行った研究者を対象に贈られる賞です。

授賞式は帝国ホテル東京において 9 月 22 日に開催され、列席した約 1,000 人の高校生を対象に、贈呈記念として「電子の隠れた超能力の開拓：新奇な絶縁体から超伝導体まで」という題目で特別講義・サイエンスセミナーも行われました。

受賞記念に約1,000人の高校生を対象に行った特別講義・サイエンスセミナーの様子

笹川准教授の受賞コメント

笹川准教授

今回の受賞は、私にとって 1 番の経験を 3 つも同時に味わうことができたこともあり、感無量です。

1 つ目は、副賞の規模が、私がこれまでに貰った中で断トツの 1 番だったことです。

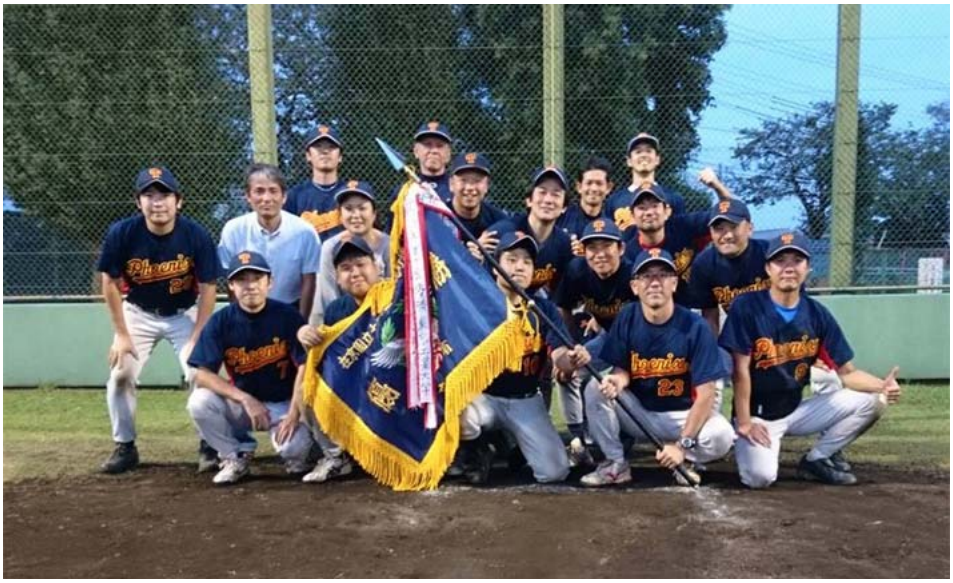
2 つ目と 3 つ目は、サイエンスセミナーという特別講義を受賞記念に行いましたが、私がこれまでに行った講演・講義の中で聴講者数が 1 番多く、その平均年齢も 1 番低かったことです。

この素晴らしいイベントを通じて、研究活動にはワクワクする楽しさが溢れており、時には報われることもあるということが伝わって、大学院、更にはアカデミックな分野に進むことになる高校生が少しでも増えてくれたら大変嬉しく思います。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：科学技術創成研究院 准教授 笹川崇男・2017 年 10 月 13 日）

職員野球部「東工大フェニックス」が在京大学等対抗の野球大会で優勝

本学職員等の有志による野球部「東工大フェニックス」が、9 月 30 日、10 月 1 日の 2 日間にわたって開催された 2017 年度在京大学等職員懇親野球大会において優勝を果たし、前回大会に続いて 2 連覇を達成しました。



優勝を喜ぶ職員野球部「東工大フェニックス」のメンバー

「在京大学等職員野球大会」は、文部科学省および東京都内の国立大学法人等各機関の有志によって結成されたチームが年に1度集まり、トーナメント形式で行われる野球大会です。東工大フェニックスは2015年度大会で優勝、2016年度の雨天中止を経て、連覇をかけ今大会に臨みました。

決勝では独立行政法人 日本学生支援機構（以下、JASSO）と対戦し、両者とも引けを取らぬ僅差の展開が続きました。最終回にJASSOに勝ち越しを許し、1点差を追う東工大フェニックスでしたが、2アウト2・3塁から代打の林宏樹選手（情報基盤課）がサヨナラヒットを放ち、9対8で劇的な勝利をおさめました。

決勝戦のスコアボード

2日間で計4試合を戦うのは壮年期のメンバーにとっていささかハードなスケジュールでしたが、田中陽子マネージャー（研究企画課長）が朝早くから米1升分のおにぎりを用意して選手を鼓舞し、控えの選手もプレイヤーと気持ちを一つにして試合を支え、チーム全員の力で優勝旗をつかむことができました。

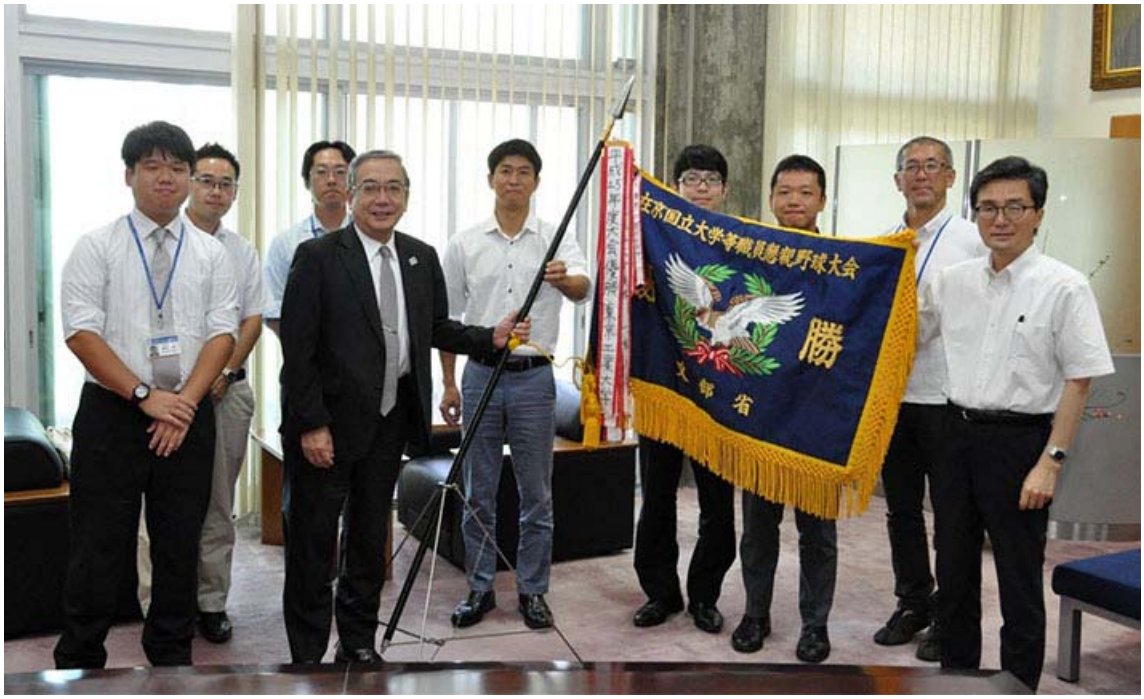
職員野球部「東工大フェニックス」について

東工大フェニックスは2010年に、前身の東工大職員野球部メンバーが主体となってスタートしました。総務、財務、学務、研究推進などさまざまな部署の職員や地球生命科学研究所（ELSI）の研究員など多様なメンバーで、昼休みなどを使って練習に励んでいます。また活動を通じて、普段の仕事ではなかなか関わることのできない構成員とも部署や職種を越えて密に語り合うことができ、選手・マネージャーともに懇親を深めています。

昼休みの練習風景

本学の教職員によるサークルは他にも多く存在し、サッカーやバドミントン、バスケットボール、卓球など、昼休みの短い時間の中で積極的に活動を行っています。研究や業務の合間に、グラウンドや体育館に集まって汗を流すことができるというのは、大学で働くことの大きな魅力でしょう。またそれらの活動を通じて生まれる円滑なコミュニケーションは、コンパクトで機動力が高く団結力のある、本学の強みの一層の強化につながっています。

今大会の優勝を受け、三島良直学長、芝田政之理事・副学長（財務・施設担当）・事務局長へ喜びの報告と、優勝旗の奉呈を行いました。三島学長は「前回大会に続き、またもサヨナラ勝ちの優勝でしたか。皆さんよくやってくれました」と健闘したメンバーを称えました。



三島学長（左から4番目）、 芝田政之理事・副学長（財務・施設担当）・事務局長（右から1番目）と、結果報告に訪れた職員

大澤晃監督のコメント（施設運営部 施設総合企画課 安全企画室 安全企画グループ グループ長）

今年 1 月に就任した新米監督です。個々のレベルアップを目標に、短い昼休みに効果的な練習方法を選手間で相談して工夫し、実践力も高めるためにオンシーズンには横浜国立大学職員野球部との練習試合を毎月行うなど、楽しく、そしてまじめに活動しています。

当初の試合ではなかなか結果を出せなかったのですが、本大会での連覇を大きな目標に、選手が地道に練習をして、マネージャーに支えてきてもらったおかげで、本番ではすばらしいチームワークと個々の力を発揮でき連覇を成し遂げることができたと思います。

このすばらしい結果により、「東工大フェニックス」はさらに盛り上がって活動していきたいと思います！

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報・地域連携部門・2017 年 10 月 25 日）

サイクリング部サイクルサッカー班 チャンピオンズカップで優勝し、世界大会に出場決定

世界大会出場選考会を兼ねて 7 月に行われた「2017 年度チャンピオンズカップ」（公益財団法人 日本自転車競技連盟主催）のサイクルサッカー二人制室内競技種目で、東工大 OB と東工大学生のペアが見事優勝しました。

これを受けて、東工大サイクリング部サイクルサッカー班の赤津陸さん（工学部 無線材料工学科 学士課程 4 年）と東工大 OB の松田鋼さんのチーム「たちかわ CSC1」が、オーストリア・ドルンビルンで 11 月 24 日（金）～11 月 26 日（日）に開催される「世界室内自転車競技選手権大会（UCI Indoor Cycling World Championships 2017）」に日本代表として出場します。

試合中のたちかわ CSC1（黄色いシャツのチーム。左が赤津さん、右が松田さん）

日本代表の赤津さんが所属する東工大サイクリング部サイクルサッカー班は、11 月 11 日（土）、12 日（日）の 2 日間、大阪府和泉市の桃山学院大学にて行われた、「全日本学生サイクルサッカー選手権大会（インカレ）」（公益財団法人 日本自転車競技連盟主催）に出場しました。学生日本一を決めるこの大会には全 27 チームが出場し、東工大は赤津さんがペアを組むチームともう 1 チームがそれぞれ 7 位、8 位に入賞し、賞状が授与されました。

全日本学生サイクルサッカー選手権大会での東工大チーム（黒いユニフォームの左が赤津さん、右が高尾憲太郎さん（工学部機械宇宙学科4年））

全日本学生サイクルサッカー選手権大会の様子

赤津さんのコメント

試合の様子（黒いシャツが赤津さん）

限られている時間の中でペアとして完成度が高められるように練習してきたので悔しいという思いはあまりないです。東工大の学生は 4 年生になると忙しくなり練習の時間が限られる中、インカレでの優勝を目指す学生も少なくなります。そのような状況のなか、チームパートナーと優勝を目指して練習できたこと自体が楽しかったです。

世界選手権での目標は B リーグ※優勝です。当日は本調子で挑めるようにしたいと思います。どうか応援よろしくお願いいたします。

※世界室内自転車競技選手権大会は、A リーグ（上位）6 ヵ国と B リーグ（下位）6 ヵ国に分かれており、現在、日本は B リーグです。A リーグの最下位と B リーグの優勝チームが最後に入れ替え戦を行います。これに勝てれば翌年は A リーグでスタートできます。日本は B リーグでの優勝を何度も経験しています。ちなみに次回大会の開催地であるドルンビルンは、日本が A リーグ 5 位となって A リーグに残留したことのある記念すべき場所です。

チャンピオンズカップとは

公益財団法人 日本自転車競技連盟が主催する「UCI 世界室内自転車競技選手権大会派遣代表選考会」、兼「UCI サイクルサッカーワールドカップファイナル派遣代表選考会」です。競技種目は、サイクルサッカーとサイクルフィギュア男女別シングルの 2 種目です。

サイクルサッカー競技は予選リーグと決勝トーナメントによって順位を決定します。

試合の様子

2017 年度サイクルサッカーには 16 チームが出場しました。優勝したチーム「たちかわ CSC1」は、過去幾度も世界選手権への出場経験を持つ東工大サイクリング部サイクルサッカー班 OB の松田さんと、東工大現役学生の赤津さんによるペアです。準決勝で昨年度の優勝チーム「RSV OSAKA」を下し、2017 年度チャンピオンズカップ優勝と上記 2 つの世界選手権への出場権とを手に入れました（ただし、UCI サイクルサッカーワールドカップファイナル（UCI Cycle―ball World Cup 2017 Final／ドイツ ヴィリッヒ／2017 年 12 月 2 日）への出場は、メンバーの都合により出場を辞退しています）。

サイクルサッカーとは

サイクルサッカーは、2 人 1 チームとなって自転車に乗って行うサッカーのようなスポーツで、体育館などで行われる室内自転車競技の一種です。競技には専用の自転車を使い、主に前輪を使ってドリブルやパス、シュートをします。ほとんど立ちこぎでプレーするため、自転車はハンドルが上を向き、ギアは固定ギアになっています。

使用するボールは表面が布製で直径は 17～18 cm、重さは 500～600 g。コートの広さは 11m×14m で、試合は 2 対 2 で行います。試合時間は前半 7 分、後半 7 分の合計 14 分。試合中、選手は地面に足を着いてはいけません。サイクルサッカーは自転車を巧みに操りながら、ゴールを狙うスポーツです。日本ではほとんどの選手が大学から始めます。

東工大サイクリング部とは

東工大の公認サークルとして、東京工業大学、お茶の水女子大学、東京外国語大学の学生を中心に活動しています。主にツーリング班、サイクルサッカー班、レーサー班の 3 班に分かれて 100 名ほどが活動しています。今回メンバーが優勝したサイクルサッカー班には東工大生 22 名と東工大卒業生、他大生が所属し、東工大大岡山キャンパスの体育館で週 2 回練習しています。

東工大サイクリング部サイクルサッカー班は、2017 年 11 月 24 日（金）～26 日（日）に世界室内自転車競技選手権大会（オーストリア）に出場します。ぜひ、みなさんの温かい応援をよろしくお願いします。

表彰式の様子（黄色いシャツがチームたちかわ CSC1）

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報・地域連携部門・2017 年 10 月 19 日（※11 月 24 日に、全日本学生サイクルサッカー選手権大会（インカレ）に関する内容を追記））

松岡清一さんが代表取締役を務めるFIXER社がマイクロソフト社から表彰

環境・社会理工学院技術経営専門職学位課程の松岡清一さん（専門職学位課程1年）が代表取締役を務める株式会社FIXER（所在地：東京都港区、以下フィクサー）が、Microsoft Partner of the Year 2017 Awards（以下マイクロソフト パートナー オブ ザ イヤー）において、「Microsoft Country Partner of the Year（Japan）（以下マイクロソフト カントリー パートナー オブ ザ イヤー（ジャパン））」を受賞しました。

マイクロソフト社 ワン コマーシャルパートナーの CVP ロン・ハドルストン氏と

フィクサーは、マイクロソフト社のクラウドサービス「Microsoft Azure（マイクロソフト アジュール）」のフルマネージドサービスの提供や、オンプレミスからクラウドへの大規模サーバ移行支援、人工知能／機械学習を活用した業務改善支援等を行う企業です。

マイクロソフト パートナー オブ ザ イヤーは、マイクロソフト社の全世界のパートナー企業のうち、同社の製品を基盤としたソリューションやサービスを提供し、特に優れた実績を挙げた企業を表彰するものです。2017年は全世界115ヵ国、2,800件超のパートナー企業がノミネートされました。フィクサーは、本年度、日本国内で最も優秀な業績を収めたパートナーとして、「マイクロソフト カントリー パートナー オブ ザ イヤー（ジャパン）」として表彰されました。

松岡さんは、2017年9月16日（土）に技術経営専門職学位課程主催で開催する『MOTオープンハウス「経営とMOT ～経営者からみたMOTを学ぶ意義～」』にて講演予定です。

松岡さん

マイクロソフトのイベント「マイクロソフト インスパイア」の
パーティーで乾杯の発声

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：技術経営専門職学位課程事務室・2017 年 9 月 13 日）

東工大メディア研究会が、米マイクロソフトの学生 IT コンテスト世界大会でベスト32に

本学学生で構成された東工大メディア研究会 TITAMAS（以下タイタマス）が、米・マイクロソフトが主催する学生 IT コンテスト「イマジンカップ」日本予選大会で最高賞となる優秀賞を獲得し、7 月 24 日、25 日にわたって開催された「イマジンカップ ワールドファイナルズ 2017」に日本代表として出場しました。

左から佐々木俊亮さん、山崎健太郎さん、岩瀬駿さん

イマジンカップは 2003 年に始まり、これまで世界 190 ヵ国から 200 万人以上が参加している世界最大規模の学生向け IT コンテストです。国際競争力のある IT 人材の育成を目指し、社会の課題解決に役立つソリューションや、新たな価値を与えるプロダクトを創造し、競い合います。

ワールドファイナルズには、各国から国内予選を勝ち抜いた 39 ヵ国 53 チームのファイナリストが集結します。日本からは、視覚障がい者向けスマート白杖デバイスを開発したタイタマスと、ディープラーニングを用いて音声変換システムを実現した、東京大学大学院生有志による NeuroVoice（ニューロボイス）が国内予選を突破し、日本代表として参加しました。

今回、タイタマスが開発したのは、視覚障がい者向けスマート白杖デバイスの Walky（ウォーキー）です。カメラと超音波センサーを用いて、目の前のどれくらいの距離に、どのような障害物があるのかを検知し、指向性スピーカーを通して利用者に知らせてくれるものです。通常、視覚障がい者は、白杖で足元の危険を知ることができますが、目の前にあるトラックや高い位置にある物体を把握するのは容易ではありません。メンバーの従兄弟が視覚障がい者であり、このような課題を抱えていたことから、同プロダクトの開発に着手しました。

視覚障がい者向けスマート白杖デバイス
「Walky（ウォーキー）」

日本代表チームは技術力が高いことで定評がありますが、例年、英語によるプレゼンテーションがネックとなって、苦戦を強いられています。英語でいかにプロダクトの魅力を伝えられるか、どれだけ審査員からの質疑応答に対応できるかが課題となっています。そのため、今年の日本代表チームには、グロービス経営大学院とベルリッツ・ジャパンの 2 社から、英語やプレゼンテーション、ビジネスプランへのメンタリングが提供され、プレゼン力に磨きをかけて世界大会へ挑みました。

日本マイクロソフト株式会社で行われた、
英語プレゼンテーションのトレーニングの様子

タイタマスは、1 次審査でベスト 32 に選ばれ、決勝トーナメントへの進出を決めました。続いて行われた準々決勝では、プレゼン資料やデモンストレーションによる発表と審査員からの質疑応答を行います。審査員からは、製品化したときの販売価格やバッテリーの耐久時間、ネットワーク環境の安定性や画像認識のスピードなど、技術面やビジネスの観点からさまざまな質問が投げかけられました。タイタマスはそうした質問に丁寧に答えながら、プロダクトがいかに社会で受け入れられるかを懸命に伝えましたが、次のステージに進むことはできませんでした。

その後、タイタマスは、準決勝を前に行われた敗者復活戦に挑みました。敗者復活戦は、スライドやツールを使わずに、言葉だけでソリューションの魅力を語る 2 分間のピッチ形式で行われ、タイタマスは思いの籠ったスピーチを披露しましたが、こちらも敗者復活とはなりませんでした。

準々決勝でタイタマスが敗れ、小児糖尿病の血糖値測定システムを開発したチェコ共和国の代表チームが、優勝を飾りました。

準々決勝の様子

準決勝前に実施された敗者復活戦の様子

出場メンバーのコメント

●山崎健太郎さん（工学部 電気電子工学科 学士課程 3 年）

今回のイマジンカップ ワールドファイナルズはとても良い経験となりました。自分たちのアイデアをさまざまな場所で発表し、フィードバックを得られる機会の中でも、世界中から多様なバックグラウンドを持つ人々が集まっている場所という点で、とても素晴らしいものでした。

世界中のさまざまな国で、自分たちのアイデアを実装し、社会に落とし込む努力をしている学生たちと交流できたことは、これからの自分の大きな糧となったのは間違いありません。

ただ作るだけではなく、どう伝えて、どう社会に適応させていくのかを考えられる人間になりたいと強く感じました。

●岩瀬駿さん（工学部 電気電子工学科 学士課程 4 年）

最初にこのプロダクトを開発し始めた時に、まさか世界大会に出場することになるとは思ってもいませんでした。ワールドファイナルズでは技術力だけでなく、プレゼン能力、英語力、コミュニケーション能力などの総合力が重視され、プロダクトや自分自身に対して真摯に向き合う類稀な機会を得ることができました。今回はワールドファイナルズ ベスト 32 という結果でしたが、これからも別の形で世の中に価値のあるプロダクトを作り続けていきたいです。応援してくださった皆さまありがとうございました！

●佐々木俊亮さん（情報理工学院 情報工学系 修士課程 1 年）

今回、世界規模の大会に初めて参加し、いい経験となりました。ワールドファイナルズに残っているチームはどこも、プロダクト、プレゼン、質疑応答と全てにおいてレベルが高く衝撃を受けました。特に、プロダクト面においては、すでに利益を得ているチームもいくつかあり、実際に使ってもらったり、生の意見を聞くことが足りなかったことを痛感しました。自分自身、この大会に向けた準備を通して、どうやって相手に伝えるかなど技術以外の面で成長することができたと感じています。ぜひ本学の学生にも、こういった大会に積極的に出場してほしいと思います。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報・地域連携部門・2017 年 9 月 11 日）

コール・クライネス 東京都合唱コンクールで金賞、3年ぶり35回目の全国大会出場

東工大混声合唱団コール・クライネス（以下、コール・クライネス）が、東京都合唱連盟・朝日新聞社主催の「第 72 回都合唱コンクール」の大学職場一般部門 大学ユース合唱の部において、12 大学中 1 位となる金賞と、東京都合唱連盟理事長賞を受賞しました。

表彰式で賞状を掲げる久原さん（左）とトロフィーを掲げる練習責任者の伊藤涼平さん（右）

これにより、コール・クライネスは 2017 年 11 月 25 日（土）に東京、池袋の東京芸術劇場で開催される「第 70 回全日本合唱コンクール全国大会」に出場することが決定しました。全国大会への出場は、3 年ぶり 35 回目の快挙です。

委員長 久原直輝さん（工学部 無機材料工学科 学士課程 3 年）のコメント

約 140 名の団員が心を一つに努力してきた結果、このような成績を収めることができ、大変嬉しく思っております。コール・クライネスを支えてくださっている、東工大関係者の皆さまと先輩方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

なお、2017 年 12 月 27 日（水）にすみだトリフォニーホール大ホールにて第 52 回演奏会を行います。今年は作曲家の信長貴富氏の作品を演奏いたします。日本語で親しみやすい曲が多く、合唱と関わりがない方々にもお楽しみいただけるプログラムになっています。都大会一位金賞の歌声を是非お聴きください。

コール・クライネスとは

東工大の公認サークル「コール・クライネス」は、1963 年に創立された歴史ある大学混声合唱団です。男声は東工大、女声は東工大をはじめ、フェリス女学院大学、清泉女子大学、日本女子大学などから、総勢 140 名が参加する日本有数の大合唱団です。初めてコンクールに出場した 1978 年を皮切りに、35 回の全国大会出場と、20 回の全国大会金賞受賞を果たしています。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：東京工業大学混声合唱団コール・クライネス・2017 年 9 月 29 日）

東工大マイスターのエコノムーブ部門が エコノムーブ関西大会2017で総合3位・技術賞を受賞

東工大のものつくりサークル「マイスター（Meister）」のエコノムーブ部門は、10 月 8 日に堺カートランドで行われたエコノムーブ関西大会 2017 のワールド・エコノ・ムーブ・グランプリ（W.E.M.GP）クラス（オープンクラス）に出場し、総合 3 位、技術賞を受賞しました。

W.E.M.GP は、バイクのバッテリー等に用いられる鉛蓄電池を 2～4 個使用し、1.5 時間～2 時間内の走行距離を競う大会です。大会本部より支給される電池を用いて、時間内の距離、すなわち速さと燃費で勝負します。電池の個数や時間は大会ごとに異なり、今回の関西大会では電池 2 個（72 Wh）で 1.5 時間、すなわち 48 W で競いました。大会は今年度に 5 戦あり、11 月に成田大会、12 月に沖縄大会に参戦予定です。

マイスターの車体 「アリア（Aria）」

今大会は、6 台と参加台数こそ少ないものの、古参の強豪、株式会社ホンダアクセスの「チームエンドレス（Team ENDLESS）」や、各チームが使用するモーターの提供元である株式会社ミツバの「チーム“ヨイショット！”ミツバ」、今年度優勝候補筆頭と言われている株式会社東郷製作所の「東郷アヒルエコパレーシング」などが参加するレベルの高い大会となりました。

マイスターの「アリア（Aria）」は予選前まで、カーブを曲がり切れる、切れないの問題で本戦棄権を検討しており、一時は大会本部に棄権の旨を伝えるまでに至りました。しかし、アリアを何度も確認したところ、舵角が取れなかった原因がブレーキの油圧ホース周りの干渉にあることが判明したため、その課題を解決して何とか出場できることになりました。予選は W.E.M.GP では珍しい 1 台ずつのタイムアタックとなり、1 分 28 秒 672 でアリアは 4 位に入ることができました。

堺カートランド

EconoMove関西大会2017

90分耐久ｸﾗｽ 予選結果表
2017/10/08 12:20　参加台数 8台　出走台数 8台　天候 晴れ　コース状況 ドライ

順位	車番	ｸﾗｽ	ｸﾗｽ順	ドライバー	ﾁｰﾑ名	型式	ﾀｲﾑ	ﾗｯﾌﾟ	km/h	ﾄｯﾌﾟ差
1	1	オープン	1	東郷アヒルエコパレーシング	東郷アヒルエコパレーシング		1分 15秒 605	3/3	31.712	
2	2	オープン	2	チーム"ヨイショット"ミツバ	チーム"ヨイショット"ミツバ		1分 22秒 349	3/3	29.115	6秒744
3	4	オープン	3	Team ENDLESS	Team ENDLESS		1分 28秒 323	1/3	27.146	12秒718
4	3	オープン	4	東京工業大学Meister	東京工業大学Meister		1分 28秒 672	3/3	27.039	13秒067
5	5	オープン	5	404ecorun	404ecorun		1分 35秒 745	1/1	25.042	20秒140
6	8	オープン	6	VCR+	VCR+		1分 54秒 758	3/3	20.893	39秒153
7	6	ジュニア	1	大阪府立堺工科高等学校 自動車部	大阪府立堺工科高等学校 自動車部		2分 30秒 565	3/3	15.924	74秒960
8	7	ジュニア	2	堺市立堺高等学校 科学部	堺市立堺高等学校 科学部		2分 56秒 833	1/2	13.559	101秒228

予選結果

グリッド4番目からスタートした本戦では、1つ前のチームエンドレスを追う展開となりました。チームエンドレスがペースアップし、じりじりと離されていく中、マイスターは大会開始15分後に左前輪のバーストに見舞われました。およそ5分強で修理を完了しコースに戻ったものの、トップチームには4〜7周ほど離された状態からの再開となりました。大会1時間過ぎには、チームエンドレスに異変が発生し、電池切れを起こしました。その間にマイスターはプッシュを開始して抜き去ることに成功し、4位に浮上しました。その後、トップを快走していた東郷アヒルエコパレーシングとチーム“ヨイショット！”ミツバにもトラブルが発生します。前者はドライバーのオーバーヒート、後者は電池切れの様子でした。その隙に、チーム“ヨイショット！”ミツバをかわしてプッシュするものの、残り3周に迫ったあたりで東郷アヒルエコパレーシングが復活し、有り余る電池を見せつけるかのように快走を始めました。アリアはその時点で12 Vの電池を4 Vまで使い切り省エネ走行を余儀なくされましたが、順位を守りきり、3位に入賞しました。

堺カートランド

EconoMove関西大会2017

90分耐久ｸﾗｽ レース結果表
2017/10/08 14:35　参加台数 8台　出走台数 7台　天候 晴れ　コース状況 ドライ
ﾌｧｰｽﾃｽﾄﾗｯﾌﾟ 1分 23秒 007 ゼッケン 1 東郷アヒルエコパレーシング 47周目

順位	車番	ｸﾗｽ	ｸﾗｽ順	ドライバー	ﾁｰﾑ名	型式	周回数	所要時間	ﾍﾞｽﾄ	ﾗｯﾌﾟ	
1	5	オープン	1	404ecorun	404ecorun		51	90分 6秒960	1分 28秒 686	38	
2	1	オープン	2	東郷アヒルエコパレーシング	東郷アヒルエコパレーシング		50	90分51秒765	1分 23秒 007	47	
3	3	オープン	3	東京工業大学Meister	東京工業大学Meister		46	91分11秒284	1分 36秒 318	13	
4	2	オープン	4	チーム"ヨイショット"ミツバ	チーム"ヨイショット"ミツバ		40	85分38秒245	1分 32秒 498	11	※
5	4	オープン	5	Team ENDLESS	Team ENDLESS		34	83分32秒849	1分 30秒 905	12	※
6	6	ジュニア	1	大阪府立堺工科高等学校 自動車部	大阪府立堺工科高等学校 自動車部		33	91分53秒514	1分 41秒 694	31	
7	8	オープン	6	VCR+	VCR+		8	21分38秒805	2分 14秒 587	7	※
DNS	7	ジュニア	2	堺市立堺高等学校 科学部	堺市立堺高等学校 科学部						

※DNF

本戦結果

アリアは土壇場で電気関係が壊れたり、舵角不足というトラブルに見舞われましたが、それを本戦までに修理した努力と技術力を評され、マイスターには3位の表彰だけでなく、技術賞も授与されました。

表彰式で記念品を受け取るマイスターの今枝裕登さん

今枝裕登さん（代表兼ドライバー、工学部 機械宇宙学科 3 年）のコメント

今大会はさまざまなトラブルが発生しましたが、まず走り切れるセットアップをしてくれたチーム、陰ながら応援してくださった顧問の井上先生、大学、OB・OG の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。ミツバさんやエンドレスさんにバッテリー切れという形で正式に勝ったのは、おそらく長いマイスターの歴史でもほとんどないことだと思います。そういう意味で我々の車体がある程度のポテンシャルがあるといういい証明になったと思っています。あと 2 戦、気を抜かずに W.E.M.GP 通しての入賞を狙いたいと思います。引き続きご支援よろしくお願いします。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：東京工業大学 Meister・2017 年 10 月 25 日）

舞踏研究部が東都大学選手権で団体準優勝

10 月 8 日に埼玉県草加市の獨協大学 35 周年記念館アリーナで開催された第 115 回東都大学学生競技ダンス選手権大会（東部日本学生競技ダンス連盟主催）において、本学舞踏研究部が団体の部において 24 校中 2 位入賞を果たしました。東都大学選手権での団体準優勝は 1978 年以来で、39 年ぶりの快挙となりました。団体の部 3 位入賞した前期大会に続き、順位を 1 つ上げての準優勝です。

個人の部においては、同部から出場した 12 組のうち 8 組が入賞し、そのうち 4 組が決勝進出を果たしました。

競技ダンスとは

男女がペアになって踊る社交ダンスとほぼ同じものですが、社交ダンスが社交を目的としているダンスであるのに対し、競技ダンスは競技会にて技術や表現を競うことを目的としています。

学生の競技ダンスには、大きく 3 つの部門があり、全部で 9 種目のダンスがあります。

●スタンダード

男女が組んで踊ります。

ワルツ、タンゴ、スローフォックストロット、クイックステップ

●ラテンアメリカン

基本的に男女が離れて踊ります。

チャチャチャ、サンバ、ルンバ、パソドブレ

●フォーメーション

4～8 組が 2～4 種目のメドレーで隊列を構成しながら踊ります。

※秋の東都選手権では開催されません

東工大 舞踏研究部について

東京工業大学舞踏研究部は、学生競技ダンス連盟に所属している大学公認のサークルです。共同加盟校として、白百合女子大学と杉野服飾大学と共に活動しています。部員数は、東工大生：28 人 白百合女子大生：16 人 杉野服飾大生：9 人（2017 年 10 月現在）で、競技会にむけて日々練習しています。

今大会の入賞者

今回の東都大学選手権の東工大チームの入賞者をご紹介します。

スタンダード

ワルツの部 準優勝、タンゴの部 10位入賞
渡辺雅紀（理学部 地球惑星科学科4年）・
佐藤洸佳（白百合女子大学）組

タンゴの部 3位入賞、スローフォックストロットの部 4位入賞
斎藤悠太郎（生命理工学部 生命科学科 4年）・
大木あかり（杉野服飾大学）組

クイックステップの部 4位入賞
生方道明（工学部 電気電子工学科4年）・
斎藤那維（跡見学園女子大学）組

クイックステップの部 11位入賞
武田龍河（工学部 化学工学科3年）・小泉渚（白百合女子大学）組

ラテンアメリカン

チャチャチャの部 4位入賞、ルンバの部 6位入賞
田添康平（理学部 情報科学科4年）・水野都（白百合女子大学）組

チャチャチャの部 11位入賞
栗崎義紀（理学部 地球惑星科学科4年）・奥水早記（津田塾大学）組

チャチャチャの部 13位入賞、パソドブレの部 7位入賞
上原克也（生命理工学部 生命工学科3年）・
松田貴子（白百合女子大学）組

パソドブレの部 11位入賞
大頭拓斗（理学部 物理学科4年）・木村真由（杉野服飾大学）組

（写真提供/百川美彩）

代表 重原悠太郎さん（理学部 地球惑星科学科４年）からのコメント

前期の東都戦よりも順位を更に１つあげ、準優勝することが出来たことを大変嬉しく思っています。

普段は部室でお互いの交流を深めたり、後輩にダンスを教えたりしている部員達が大会の時は勝利に向かって一丸となっていく姿に私自身非常に感動しました。

今年度の試合も残りわずかになりましたが、良い成績のまま 2017 年度を締められるよう悔いのない日々を過ごしていきたいと思います。

4年生の集合写真

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：東京工業大学舞踏研究部・2017 年 10 月 24 日）

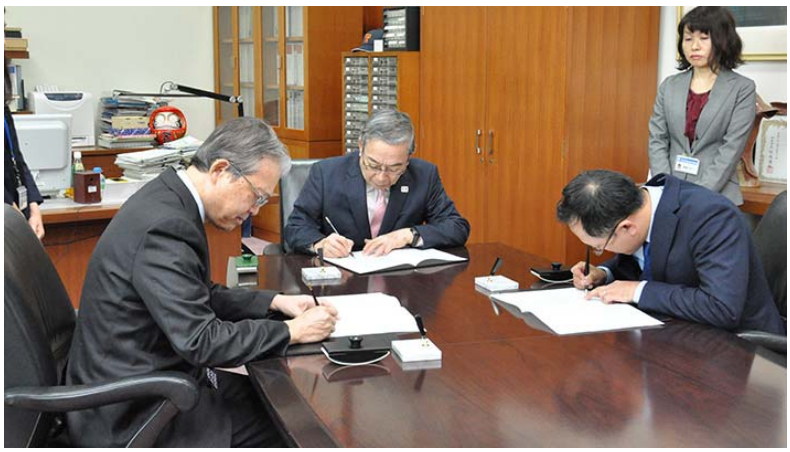
次期学長候補者を決定

国立大学法人東京工業大学は、学長選考会議における選考の結果、本学 科学技術創成研究院の益一哉教授（同研究院長）を次期学長候補者に決定しました。次期学長の任期は、2018 年 4 月 1 日（日）から 2022 年 3 月 31 日（木）までの 4 年間となります。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：総務部総務課・2017 年 10 月 4 日　※東工大クロニクルでは、東工大ニュースの情報を一部割愛。）

新産業創出・育成の推進に向けたギャップファンドの設置および運営に係る組織的連携協定を締結

東京工業大学と芙蓉総合リース株式会社（代表取締役：辻田泰徳、以下「芙蓉総合リース」）および株式会社みらい創造機構（代表取締役：岡田祐之、以下「みらい創造機構」）は、ギャップファンド※の設置および運営に係る組織的な連携協力に関する協定を 10 月 27 日に締結しました。



協定書に署名

東工大では本年 4 月から研究戦略企画・実施機能と産学連携機能を強力に束ねて実施するため、研究・産学連携本部を新たに設置し、今まで行ってきた知財の権利化、ライセンシングに加え、新産業の創出、国際共同研究の推進、イノベーションの促進に貢献するとともに、更なる知財の創出を図っています。芙蓉総合リースは、みずほフィナンシャルグループ系の国内大手総合リース会社であり、みらい創造機構が組成した東工大関連ベンチャーキャピタルファンドに出資しています。みらい創造機構は、新規事業創出と育成支援に多くの実績を持ち、東工大ともこれまで共同研究・学術指導の推進、人材教育支援、ベンチャー育成支援等を行ってきており、相互協力しながら総合的な社会連携活動の推進事業を実施するにあたり、東工大と連携協定を 5 月に締結しています。

署名後の懇談風景

今回の協定により、東工大の創造的活動として生み出された研究成果や技術・デザインなどの知的財産（研究シーズ）を実用化・事業化するために必要な追加試験や試作品製作、顧客ヒアリング等、起業直前に大学内で必要となる活動の資金不足を補うため、芙蓉総合リースが拠出する資金による日本初の産学連携型ギャップファンドを設置し、3 者が協力して新産業の創出・育成を推進していきます。

※ギャップファンド：大学が、自律的かつ機動的に大学研究室へ比較的少額の開発資金（試作開発・試作テスト資金など）を供与して大学の基礎研究と事業化の間に存在するギャップ（空白・切れ目）を埋めることにより、大学先端技術の技術移転や大学発ベンチャー創出を促していく基金。

（左）みらい創造機構 岡田社長、（中央）東工大 三島学長、（右）芙蓉総合リース 辻田社長

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：研究・産学連携本部・2017 年 10 月 30 日）

大規模都市建築を対象とした社会活動継続技術共創コンソーシアム発足

本学 科学技術創成研究院 山田哲教授を統括とした建築・都市防災・センシング・人間科学など異分野融合研究グループは、10 月に、東京大学、東北大学及び民間企業 12 社（2017 年 9 月末現在）と共に、科学技術振興機構（JST）の研究成果展開事業である産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）の 1 プロジェクトとして「社会活動継続技術共創コンソーシアム」を立ち上げました（プロジェクト期間 5 年間）。上記 3 大学と 12 社の間で行われている産学共同研究をベースに、研究開発をスタートさせたところです。

社会活動継続技術共創コンソーシアムのイメージ

本コンソーシアムでは、社会・経済の中枢機能が集約される大規模都市建築を対象に、極大地震をはじめとする自然災害に対しても、安心して社会活動が維持できる技術の創出を目指していきます。具体的には、建物の構造安全性能を大幅に向上する技術、安全性能を支える大型部材や免震・制振部材の安全性を実証する技術、設備機器類等の損傷を制御して早期復旧を実現する技術、災害時だけでなく日常から活用できるモニタリングシステム技術、情報を安心につなげる技術の確立が挙げられます（社会活動継続技術）。

そして、これらの社会活動継続技術群をパッケージとして世に送り出し、

●構造物としての耐震性だけでなく、平常時から非日常まで建物の機能・人の社会活動を継続させる高層建築システムを実現

●先端耐震部材の安全性実証技術の実現と実証法の国際標準化

●構造物の耐震性の基準から、機能や社会活動の継続まで見据えた新たな基準への変革

●首都圏で想定される 100 兆円規模の被害の抑止

●安全と安心が結合した技術による、国際市場の開拓

という新たな価値の創出に挑戦していきます。

社会活動継続技術の研究開発は、現状の 3 大学 12 社の産学共同体制で完結できるものではありません。大学など公的研究機関と関連する産業界、企業の協力関係を一層広げて議論を深め、それぞれの共同研究に磨きをかけることによって、日本発・日本オリジナルで世界に通用する社会活動継続技術を育てていきたいと考えています。

本コンソーシアム設立にあたり、キックオフシンポジウムを 2017 年 12 月 20 日に東工大蔵前会館くらまえホールにて開催します。詳細については本学 WEB 上のイベントニュースやメールマガジンを通じてご案内いたします。この機会に、多くの方に社会活動継続技術共創コンソーシアムの活動の一端に触れていただけることを期待しています。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：科学技術創成研究院 URA 小林義和・2017 年 10 月 26 日）

大岡山キャンパス内に新学生寮「緑が丘ハウス」がオープン

9 月 19 日、留学生と日本人学生の混住型の学生寮「緑が丘ハウス」（地上 4 階建て定員 63 名）が大岡山キャンパス緑が丘地区内にオープンしました。

「緑が丘ハウス」外観

寮の中で異文化コミュニケーションを日常的に行うことで、日本人学生には国際感覚を育むことを、そして留学生には日々の生活で日本文化を知って日本人学生と交流することが期待されます。

9 月中旬の学生の入寮に先立ち、9 月 5 日、「緑が丘ハウス」のエントランスにて開寮式典が行われました。

式典には、本学及び本学の同窓会組織（蔵前工業会）関係者ら約 30 人が参列しました。

三島良直学長からは「本学卒業生などから寄せられた多額の寄附により建設された新学生寮の完成により、留学生及び日本人学生のための良好な住環境が整備され、より多くの留学生が世界各地から集い、本学が進める大学改革が今後ますます発展していくでしょう」と、新学生寮への期待が込められた式辞がありました。

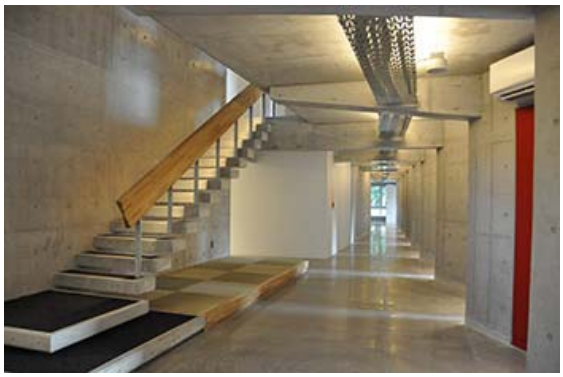
次に、来賓を代表して蔵前工業会の石田義雄理事長から「創立 130 周年を契機に多数の卒業生や有志の方々からいただいたご寄付が基となった東工大基金をもって、このように学生寮が設置されたことは大変すばらしいことです。東工大の今後のますますの発展に期待しています」と、祝辞が述べられました。

式辞を述べる三島学長

祝辞を述べる石田蔵前工業会理事長

式典の後、内覧会が開催され、1 階の共有スペースにおいて、環境・社会理工学院 建築学系の安田幸一教授（意匠担当）及び竹内徹教授（構造設計担当）により建物の特徴について説明がありました。

建物中央に位置した 2 層吹き抜けの共有スペースは、階を超えた交流ができる場として、日々の団欒に加えセミナーなど様々な交流イベントを行うことができます。各階には畳コーナーを設け、日本の生活様式を体験できるスペースを設けています。



個室の外に共有スペースを広く確保し、畳コーナーを設置

寮生は各個室に入居し、キッチン・トイレ・シャワールームは共用

エントランスのある 1 階には車いす利用者が入居できるようにスロープを設けました。また、大学敷地内という立地条件を生かし、構内道路と建物をブリッジで接続し、直接アプローチできるようにしました。

東工大は、2016 年 4 月に新しい教育システムを開始しました。科学技術分野のしっかりとした基礎能力・専門能力を持ち、世界に雄飛する気概と人間力を備え、周辺の科学技術を俯瞰しつつ異分野・異文化の人々と協調してグローバルな課題の解決とイノベーションの創出に貢献できる優れたグローバル人材を育成するのが、本学の使命です。こうした人材を育成するためにも、教育システムだけでなく、留学生と日本人学生が相互に学びあえるような環境を整えました。

緑が丘ハウスの設備、料金、入居に関する詳細情報は、「学生寮・住まい」のページ（https://www.titech.ac.jp/graduate_school/support/dormitories/）をご覧ください。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：学務部学生支援課・2017 年 9 月 27 日）

大岡山キャンパス構内の自転車走行ルールを変更

東京工業大学大岡山キャンパス内で自転車事故が多発している現況を受け、2017 年 11 月 1 日（水）より、東京工業大学大岡山キャンパス内正門付近のエリアにおいて、教職員・学生、一般利用者ともに、自転車を降りて通行していただくこととなりました。

構内を自転車で通行する際には、人・物との衝突事故を回避するため、以下の自転車走行禁止エリアにおいては自転車を降りて通行していただくよう、ご協力をお願いします。

自転車走行禁止エリア：従来の走行禁止箇所（赤色斜線部分）に正門ロータリー・事務局 4 号館・オートバイ駐車場前付近（同黄色斜線部分）を追加

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：キャンパスマネジメント本部総合安全管理部門・2017 年 10 月 10 日）

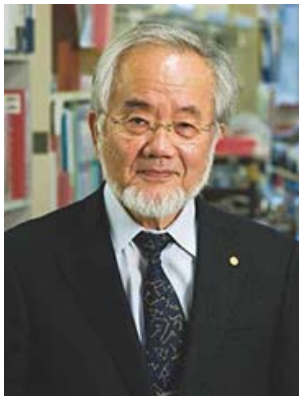
平成30年度 東京工業大学基金奨学金「大隅良典記念奨学金」の募集を開始

東京工業大学は、2016 年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典栄誉教授からの多額の寄附を原資として、2017 年 1 月に「大隅良典記念基金」を設置しました。本基金は、将来の日本を支える優秀な人材の育成、および長期的な視点が必要な基礎研究分野における若手研究者等の育成の推進など、研究分野の裾野の拡大を目的としています。

設立以降、本基金の趣旨に賛同いただいた方々からお寄せいただいたご支援と合わせ、本基金による事業が始動することとなりましたので、お知らせします。

本基金は「学生に対する修学支援」「若手研究者に対する研究支援」「その他基礎研究を実施するための研究環境の整備」に活用します。このたび、「学生に対する修学支援」事業として、優れた人材が全国から東工大に集結し、将来のリーダーとして国際的に活躍できる人材を育成することを目的とする「大隅良典記念奨学金」を設立しました。

大隅栄誉教授メッセージ



人生が豊かであるためには、沢山の人との出会い、素晴らしい先達・友人に恵まれ、刺激しあい、自分を磨くことが大切です。

君たちにとって新しく始まる大学入学はまたとない機会です。

高校生活とは違った新しい友人を作り、沢山の出会いを積極的に作るように努力して下さい。

いろんな学生諸君が東工大に集まってくれることを心から願っています。

本奨学金の募集を開始しましたので、概要については以下をご覧ください。

奨学金の目的

学業優秀な者に対し経済的援助を行うことにより、将来リーダーとして国際的に活躍できる人材の養成に資することを目的とする。

奨学生の応募資格

1. 募集時点で高等学校等に在学し、2018 年 4 月に学士課程への入学を希望する者
2. 学業成績が特に優秀で、経済的支援が必要であり、かつ学業の発展向上が期待できる者
3. 高等学校等の対象所在地域が埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県を除く地域※にあり、東工大入学後、自宅からの通学が困難な者
4. 本人が属する世帯の税込年収の合計が、給与所得の場合は支払金額が 800 万円未満の者、給与所得外の場合は所得金額が 337 万円未満の者
5. 日本国籍である者、および永住者などの在留資格を持つ者

※大隅栄誉教授が本基金設立に関する記者会見にて、「私の経験からも、大学に入学した時に全国からいろいろな人が集まってきて、全く新しい環境の中で大学生活を始められるというのは人生の中で数少ない大事な機会だと思います。この支援を通じて全国からいろいろな人が東工大に集まってくれることになることを私は願っております」と述べています。大隅栄誉教授の意思を受け、高等学校等の所在地域の制限を設けました。

奨学生採用予定人数

毎年 5 名程度

奨学金の額

月額 5 万円

給付期間

奨学金を授与する期間は、原則として学士課程の標準修業年限（4 年）以内とする。ただし、学士課程卒業後に引き続き本学修士課程に入学し、資格を満たす場合は、申請に基づき、修士課程の標準修業年限（2 年）以内で支給を継続する。

スケジュール（予定）

2017 年 9 月	奨学金募集開始
2017 年 10 月末	高等学校等より推薦〆切
2017 年 11 月	選考
2017 年 12 月	内定通知
2017 年 12 月～2018 年 3 月	入学願書出願・受験・合格発表・入学手続き
2018 年 4 月	正式に奨学生として採用

募集に関する詳細情報

平成 30 年度募集要項（https://admissions.titech.ac.jp/admission/support/economic.html#ohsumi）をご覧ください。

2030 年に世界トップ 10 に入るリサーチユニバーシティを目指している東工大のさらなる飛躍に向けて、「大隅良典記念基金」の趣旨をご理解いただき、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願いします。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：学務部 学生支援課・2017 年 9 月 1 日）

TAIST-Tokyo Tech 10周年記念シンポジウムを開催

8 月 21 日、タイ王国バンコク都内のチャオパヤパークホテルにおいて、TAIST-Tokyo Tech10 周年記念シンポジウムが開催されました。TAIST 関係者の他、大学、政府機関、教育・研究機関、企業等から約 200 名が出席し、盛大に執り行われました。

TAIST-Tokyo Tech（TAIST（タイスト）: Thailand Advanced Institute of Science and Technology）は、タイ政府からの要望により、理工系分野での高度な「ものつくり人材」の育成と研究開発のハブ（拠点）を目指して、2007 年に設立された国際連携大学院です。タイの先端研究機関であるタイ国立科学技術開発庁（NSTDA）、タイの 4 大学（キングモンクット工科大学ラカバン校（KMITL）、同大学トンブリ校（KMUTT）、カセサート大学、タマサート大学（SIIT））、および東工大との連携により運営され、2017 年 9 月までに累計 277 名の修了生を輩出しています。

シンポジウムは、始めに NSTDA のナロン・シリルーウォラクン長官、本学の三島良直学長が挨拶し、続いてタイ科学技術省のソムチャイ・ティアムブーンプラサート副事務次官がアッチャカ・シーブンルアン大臣代理として挨拶を行いました。

冒頭で挨拶する三島学長

次に、TAIST の設立・運営に貢献した功労者および TAIST の支援企業・支援者への表彰式が行われました。本学側では、功労者として歴代の学長、理事・副学長（教育・国際担当）、TAIST 運営員会委員長および本学タイオフィス拠点長の中から相澤益男元学長を始めとして 12 名が選出され、その代表として初代 TAIST 運営委員会委員長の岡崎健特命教授が挨拶を行いました。その後、NSTDA のナロン・シリルーウォラクン長官から本学側の功労者および支援企業・支援者に、本学の三島良直学長からタイ側の功労者および支援企業に、感謝状が贈呈され、表彰者全員で記念撮影を行いました。

表彰者代表の岡崎健特命教授（右）とナロン NSTDA 長官

タイ側・東工大側の功労者および支援企業・支援者で記念撮影

続いて、基調講演が行われ、タイ東部経済回廊（Eastern Economic Corridor、以下 EEC）事務局のカニット・セーンスバン事務局長が「EEC について」、在タイ日本国大使館の佐渡島志郎大使が「タイにおける人材育成への貢献について」、元タイ石油公社総裁で本学同窓生のパイリン・チューチョーターウォン氏が「Thailand4. 0 に向けた教育に対する産業界の貢献について」、それぞれ話をしました。

基調講演を行う佐渡島志郎大使

次に、「Towards Global Education and Research Collaboration for Thailand 4. 0」をテーマにパネルディスカッションが行われ、本学からは花村克悟 TAIST 運営委員会委員長が参加しました。「Thailand4. 0」は、タイ政府が打ち出している、農耕、軽工業、重工業に続く、ICT 等を活用した新たな産業創出を目指すスローガンです。タイ政府の政策に対し、大学等の教育・研究機関が具体的にどのように対応すべきかについて、活発な議論が行われました。

パネルディスカッションの様子

パイリン氏（前列右）他、耳を傾ける列席者

最後に、NSTDA のチャダマス・ツバセタクル副長官および本学の丸山俊夫理事・副学長（教育・国際担当）より閉会の挨拶があり、盛況のうちにシンポジウムは終了しました。

閉会の挨拶を行う丸山理事・副学長

設立から 10 周年を迎えた TAIST は、今年から新たに鉄道カリキュラムがスタートする等、教育活動の幅がますます広がっています。TAIST を通じた本学のタイにおける教育・研究活動に今後もご期待ください。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：国際部国際事業課・2017 年 10 月 27 日）

2017年度前期の附属図書館企画展示

研究推進部情報図書館課

東工大附属図書館では、所蔵資料の利用促進のため、1 年を通じて企画展示を行っています。テーマは 2～3 ヵ月毎に変更します。図書館サポーター※の学生などが本を選び、ポスターや配布用のリストとコメントを書いたポップの作成を行っています。2017 年度前期に実施した展示を紹介します。

※図書館サポーターとは…
カウンター対応、書架の整理、資料の整備、広報活動、展示等の企画など、さまざまな活動を図書館職員と協働して行っている学生たちです。

図書館サポーター推薦：2017 春 新入生にすすめる本
展示期間：4 月 3 日～5 月 31 日

「2017春　新入生にすすめる本」ポスター

附属図書館では 2011 年より毎年「新入生にすすめる本」をテーマにした企画展示を開催しており、今回で 7 回目となりました。

4 月に入学された方々に向けて、図書館サポーターが選んだ本を大岡山本館地下 1 階とすずかけ台分館 1 階にて展示しました。サポーターが作成したポップは本に添え、推薦文は配布用の図書リストに載せました。

大学での学修だけではなく日々の暮らしの中で役立ちそうな本や、新入生だけでなく在学生や教職員にとっても気になる本がたくさん展示されました。 そのためか、展示本だけでなくポップに書かれたコメントにも目を通したり、図書リストを持ち帰る人の姿が多く見られ、大変好評でした。

展示風景（大岡山本館）

展示風景（すずかけ台分館）

図書館サポーター推薦：ヒト、モノ、コトの歴史の本
展示期間：7 月 14 日～9 月 21 日

「ヒト、モノ、コトの歴史の本」ポスター

大岡山本館地下 1 階とすずかけ台分館 1 階において、歴史をテーマにおすすめの本や DVD を展示しました。

図書館サポーターたちが自身の専門や個性を活かして資料を選びました。食べ物の成り立ち、言葉の起源、科学者の生涯など、様々なヒト、モノ、コトの歴史に焦点をあてた 40 点が集まり、附属図書館の所蔵資料の幅広さを感じられる展示となりました。期間中、ポップやポスターとともに展示資料を眺めている来館者の姿が多く見られました。

展示風景（大岡山本館）

展示風景（すずかけ台分館）

（全学サイト東工大ニュース公開日：2017 年 10 月 31 日）

東工大クロニクル No.520
2017年11月30日 東京工業大学広報・社会連携本部 広報・地域連携部門発行
©東工大クロニクル企画チーム
編集長 千葉 明（工学院 教授）
陣内 修（理学院 准教授）
住所：〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-E3-13
TEL：03-5734-2976 FAX:03-5734-3661
E-mail：publication@jim.titech.ac.jp
最新号・過去号：
http://www.titech.ac.jp/about/overview/publications.html#h3-7
東工大クロニクル執筆要項：
http://www.titech.ac.jp/staff/relations/chronicle/chronicle.html
ISSN 1349-9300

※タイトル下に部署名／個人名がある記事は、東工大クロニクルに投稿があった記事です。